

二項關係

谷田貝常夫

文語日記 平成二十五年七月一日

何時の頃からかならむ、母親あるいは祖母が子供たちに歌を歌ひ聞かせる習慣の無くなりたりと見ゆ。せつせつせ、夏も近づく八十八夜とお手玉を操ることもなく、一かけ二かけで三かけてと鞠つきの姿も見かけなくなりたり。車のはげしくて外で遊ぶこともなく、屋内にてはテレビのチャンネルを争ふ。唱歌も童謡も聞かず、知らざる世代いよいよ擴がるの觀あり。

過日、電車内にて一歳を過ぎたるばかりと見受けらるゝ女兒の、乳母車より聲を發するを見掛く。舌足らずながら「ちゆぎわちゆぎわ」と聲を立つ。車を覗き込みをる母親と祖母、笑顔を見合せながら「何を言つてゐるのかね」と囁きあふを耳にして驚かさる。明らかに車内アナウンスの「次は、次は、千鳥町」と繰返す女性の聲を眞似たるものなり。見かねて余、そのこと指摘するに及びて母親始めて喃語の意味に氣付きたり。「さうなんだ」子供にかしづき、猫可愛がりするにしては子供への眞の關心薄しと見受けたり。祖母も同様なれば、なるほど童謡、唱歌を歌つて聞かするなどの慣らひ消えゆくも當然なるかと歎かれたり。アニメに出る歌、コーシヤルの歌などは覺ゆるも、古くからの子供の歌に接する機會著しく減りしならむ。

發達心理學に「三項關係」なる用語あり。一歳以前の子供の、或る對象物を指さすことあり。これを二項關係と言ひ、更に日を重ぬるに、犬なり玩具なりの對象に興味をひかれて指さすと共に、母親を振り返り人の注意引きつけたりす。かくのごとく物を介して人と交る、乃至人を介して物と係はるを心理學にては三項關係の始まりと言へるものごとし。母親の對象物の名前の連呼などよりここに子供、言葉との係はりを得。子供のかかる心理の展開を知るに及びて、喃語とはいへ、子供の發音の何を意味するかに無理解の親にいささかの憤り覺えたり。將來の日本人の人間性に、いづこか虧けたるところ生ぜむとの憂ひあり。

ただ、「三項關係」なる用語に異論あり。いづれ數學用語をもちゐたる歐米の論文の後追ひならむも、かかる言葉にて科學的なるを保證せむとする心底見ゆ。余なれば「三者關係」といたしたく、者も物も日本語にては同じことなれば、眼を三角に尖らさむ要もなからむ。